

（2）評価計画・評価から評定への総括方法

学習評価は、児童・生徒の学習活動を励まし、資質や能力を伸ばすためのものであり、同時に教師が自らの指導を振り返り、その改善を図るもの。

学習評価を行うに当たっては、評価のための評価となることなく、児童・生徒一人一人に学習指導要領の内容が確実に定着するよう、いわゆる**指導と評価の一体化**を図ることが重要である。

目標に準拠した評価

学校や教師は指導の説明責任だけでなく、指導の結果責任も問われる。したがって評価の「妥当性」を確保し「**信頼性**」のある評価として実施しなければならない。「妥当性」とは評価結果が評価の対象である資質・能力を適切に反映しているものを指す。

「**信頼性**」を確保していくためには・・・

- 1 指導の目標（ねらい）が明確であり、適切な内容が設定されている。

学習指導要領に示されている教科の目標と内容に基づき、児童の実態等を踏まえて年間指導計画を作成し、これを基に単元（題材）ごとの目標と内容、さらには学習活動等を示した指導計画を作成する。

- 2 指導の目標及び内容と対応した評価規準が設定されている。

単元（題材）ごとの目標と内容を分析し、単元（題材）ごとの観点別学習状況の**評価規準**を設定する。

- 3 評価規準で示される資質や能力を評価するのに適した方法が選択されている。

単元（題材）の中での各1単位時間の学習活動について、どのような資質や能力をどこまで育成するのか、ねらいを明確にして、具体的な**評価規準**（期待される児童・生徒の姿について、あらかじめ具体的に想定しておくもの）を設定するとともに、評価場面と評価方法を明らかにする。

具体的には・・・

単位時間の指導においては、指導のねらいの重点化を図る。

（ねらいが重点化されていれば、評価についても焦点化することができる。）

- ・ 学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容について、また、教科で育成すべき資質や能力について十分に理解する。
- ・ 各単元（題材）の目標及び内容等に応じて、各1単位時間の指導のねらいや内容があいまいになることがないよう、何をどこまで身に付けさせるのかを明確にする。
- ・ 各1単位時間の指導のねらいや内容に基づいて、評価の観点を焦点化し、評価規準を設定する。
- ・ 教師が、評価規準に示された資質や能力について、児童の状況を無理なく的確に把握できるよう、評価場面と評価方法を選択する。

評価・評定について

- ・ 単元(題材)における観点ごとの総括
- ・ 学期末における観点ごとの総括
- ・ 学年末における観点ごとの総括について A(十分に満足でき)・ B(おおむね満足できる)・ C(努力を要する)
A(○%以上)・ B(□%以上○%未満)・ C(□%未満)

評定について

A = 3 点、B = 2 点、C = 1 点として 3 観点合計が

- ・ 9 点(A A A) → 3
- ・ 8 点(A A B / A B A / B A A) → 3 か 2
- ・ 6 ~ 7 点(B B B / A B B / A A C 等) → 2
- ・ 4 ~ 5 点(B B C / A C C / B C C 等) → 2 か 1
- ・ 3 点(C C C) → 1

保護者への情報の提供について

評価基準や評価方法等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなど、学習評価に関する情報をより積極的に提供することが求められる。また、指導要録、受験の際の調査票等について開示の請求があった場合には応じなければならない。保護者には教育委員会を通じて諸手続きを踏んでいただくように周知するとともに、監視力にすみやかに報告する。また常にこれを念頭に置き、説明責任を果たせる評定をすべきことを意識する。

通知表について

通知表とは・・・

児童にとって、励みになるもの

保護者にとって、学校での学習・生活の様子や指導の経過がわかるもの

教師にとって、自分の指導の成果を顧みるもの

指導要録とは・・・

次年度以降の指導に向けて、児童一人一人の達成度や課題を引き継ぐもの

学習

『よくできる』目標を超えて学習に取り組んでいる。

9 割以上の理解

提出物を期限までに出し、丁寧に仕上げている。

学習の視点に沿った記録や意見ができる。

学習を展開させるに重要な発言ができる。など

II 教務部 1 教務の概要（2）

『できる』目標に達して、学習に取り組んでいる。

8割以上の理解

学習指導要領の「標準」

提出物を忘れずに出している。

『がんばろう』目標に達するまでに、取り組む課題がある。

ノートが雑である。

課題として出されたものをやりこなせない。

学習の視点に不十分な記録や発言をする。

生活

『よくできる』目標を超えて、生活している。

言われなくても行うことができる。

大変努力している。⇒所見にかけer内容がある

変更（追加）案

A…すべての観点で9割
以上達成している。

C…全体で6割程度以下
B…その間

『できる』目標に達して、生活している。

言われて行うことができる。

『がんばろう』目標に達するまでに、取り組む課題がある。

言われても行うことができない。

特に課題がある。⇒指導経過や今後の課題について所見に書ける内容がある。

※生活の評価

記録（ポートフォリオ）を作成する

毎週または、隔週でそれぞれの項目を評価し記録をためる。（ポートフォリオ）

例 挨拶 A自分から B挨拶を返す Cしない

A 9割以上 B 8割程度 C 8割未満

特別活動の記録

・「事実の記録」を複数書く。

学級活動、係活動、委員会活動、クラブ活動、学校行事など

・「事実の記録」として、学校教育に関する表彰等について記入してもよい。

・ 活動の様子等児童一人一人の成長が明確になるように記録する。

道徳・総合的な学習の時間・読書科

・「道徳」「総合的な学習の時間」「読書科」の記録は、毎学期記入する。所見は年間に1回記入する。

総合所見

- ・ 総合所見は、保護者に向けて、学習面や生活面を中心に学校生活全般にわたって記入する。

（具体的な場をあげて評価する。）

- ・ その学習や活動を通して、どのような力が身に付いたのか、どのような課題があるのかなど、事実に基づいた現在の指導状況と今後の方向性を示す。
- ・ 字数は160字以内
- ・ 指導要録については、通知表の表記に準じ、かつ次年度以降の指導に参考となるように、具体的な指導内容を表記する。ただし、情報公開を考慮し人権にかかわること・否定的な表現等にならないように配慮する。

総合所見提出の流れ

- ①若手は下書きを副校長へ（副校長→校長）
- ②学年間で確認（特に誤字・脱字・言い回し）
- ③提出日までに修正した下書きを副校長へ（副校長→校長）